



日本型教育の海外展開 (Edu-Portニッポン)
シンポジウム



unesco

International Institute for
Educational Planning



国際的な教育議論における 非認知能力と社会情動的ス キル

ユネスコ国際教育計画研究所

技術協力部 部長

水野谷優

日本の教育の国際的な強み

日本型教育が注目される理由

学力面でも世界トップ水準!

PISA 2022 (15歳)

科目	OECD内順位	世界順位
数学	1位	5位
読解	2位	3位
科学	1位	2位

学力だけじゃない! 育む力「生きる力」

知 徳 体 食育

知・徳・体の全人教育

「生きる力」を育む教育が日本の強み!

成人（16歳以上65歳以下）
においても高い成績

- OECD PIAAC (成人基礎スキル) 2023
 - 読み書き 2位相当/31か国中
 - 数的思考 2位相当/31か国中
 - 問題解決 1位相当/31か国中

日本型教育の海外展開に関する潜在的チャレンジ

- 各国は理念の共有に加え、実装に必要な設計情報（研修・評価・制度接続・コスト）を求める。
- 日本側がそれらを一体として提示できないと、採用判断や資金化に結びつきにくい。
- 学校文化に依存する要素は、再現条件（制度・時間・教師行動・学校運営）を明示しないと、効果が再現されにくい。
- 政策言語ギャップ：「知徳体／特活」は、**learning outcomes／competencies／skills framework** などの国際的な政策言語へ翻訳しないと政策対話になりにくい。
- 国際展開では、介入効果・実装条件・再現性を示すエビデンス設計が求められるが、提示が難しい。

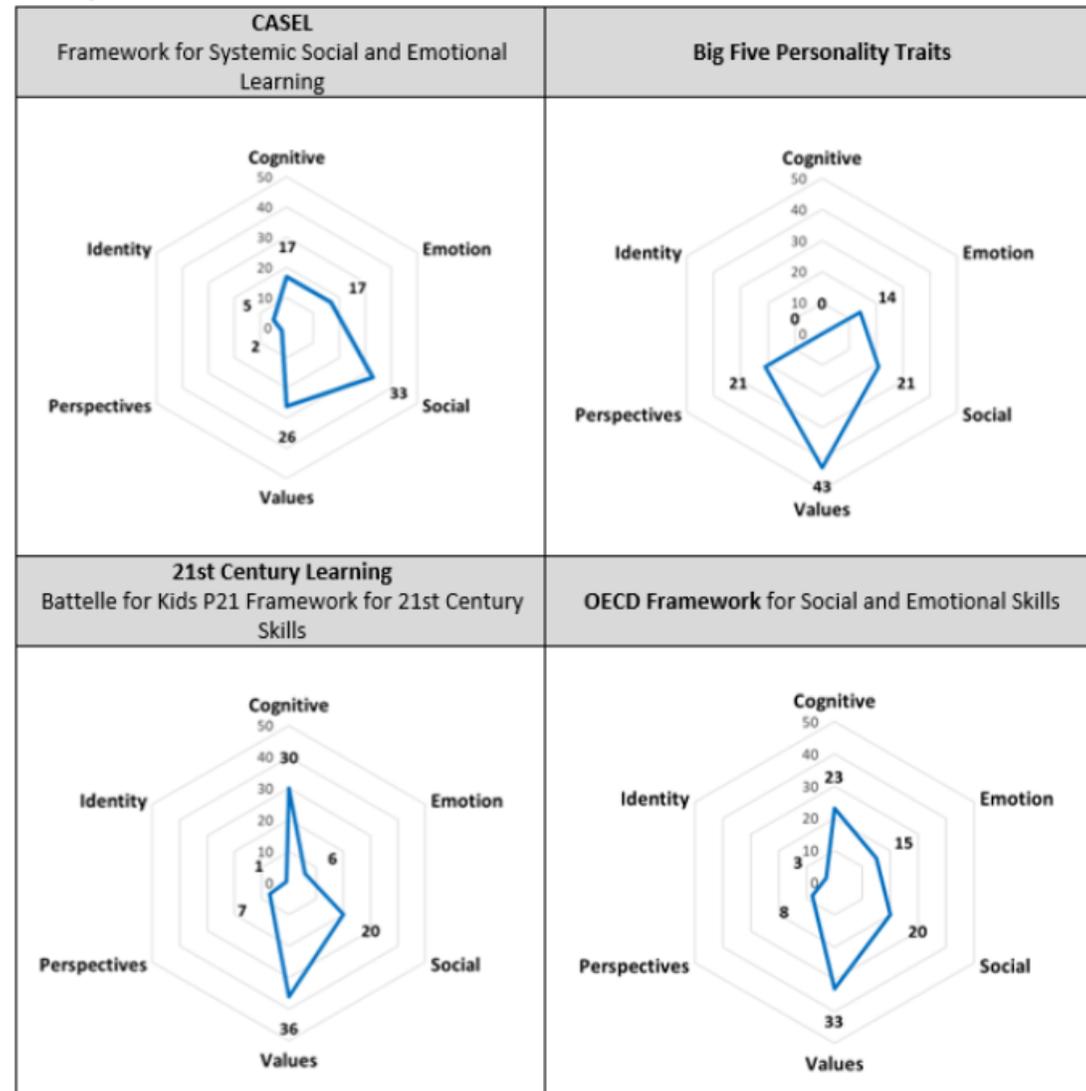
社会的情動スキル (SEL) – 世界の教育政策議論と日本式教育をつなげる鍵



社会情動的スキル (SEL)の可視化

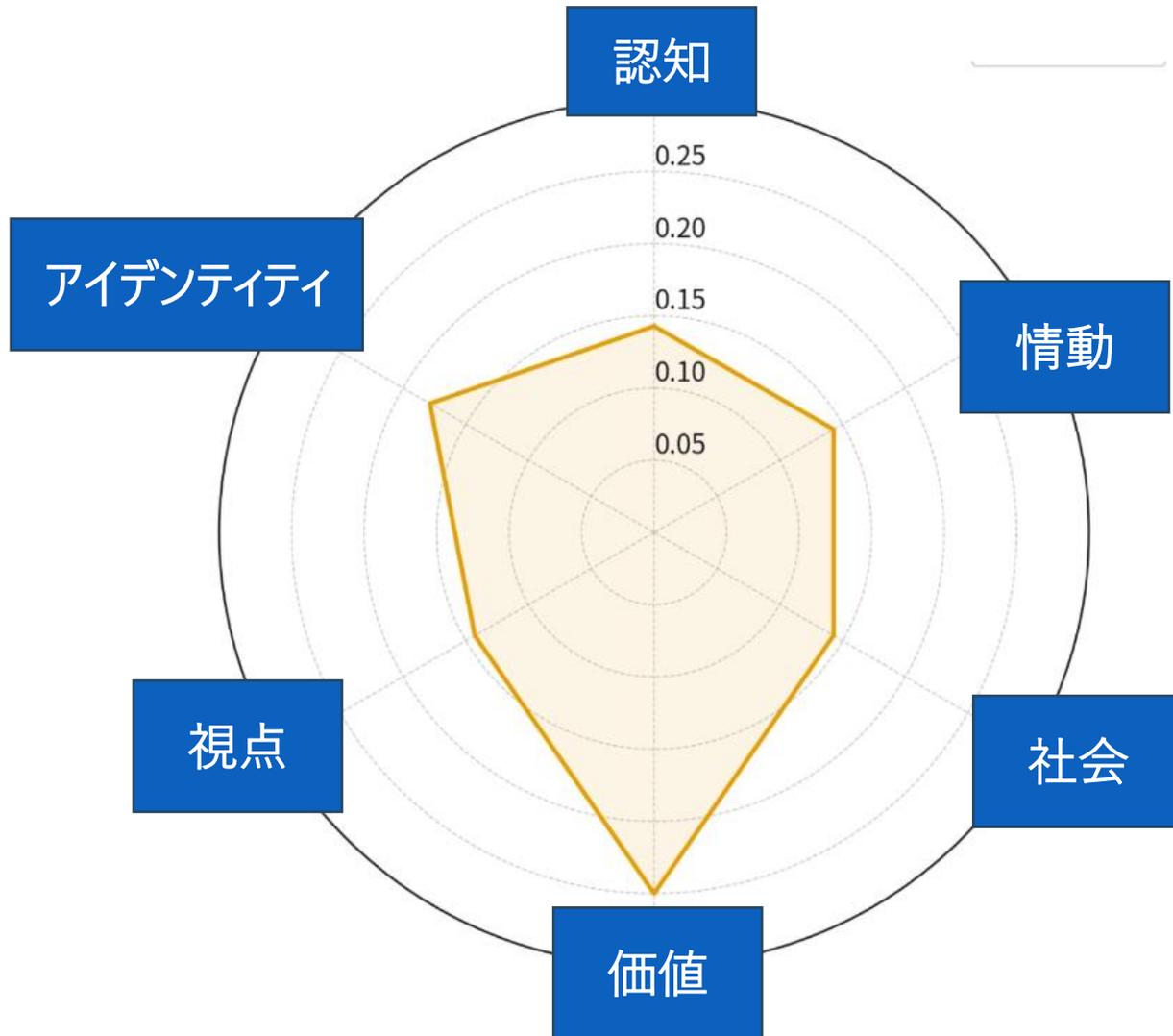
- ハーバード大学のジョーンズ教授によるEASELプロジェクトは、SELに関するタクソミー（分類）を開発し、それにより、様々なSELに関するフレームワークがどのようなスキルを念頭に置いてあるか、など比較分類が可能になった。
- 右チャートは、CASEL、ビッグファイブ、21世紀スキル、OECDのSELフレームワークを、認知、感情、社会、価値、視点、アイデンティティの各分野で比較・可視化したもの。
- SELや非認知スキルを議論するときに、共通理解が無いのが常なので、このようなマッピングは議論の土台となる。日本型教育が進めるSELコンペテンシーを定義すれば同様に比較マッピングと政策対話が可能。

Figure 2.2 Comparison of skill emphasis across selected SEL-related frameworks mapped onto the Explore SEL domains



Source : Mizunoya, s & N. Yokogawa (forthcoming)

SELタクソミーを使った「生きる力」の可視化の一例



- 学習指導要綱（平成29年）の総則において重要視されているコンセプトをSELの6領域ごとに分析。
- CASEL、ビッグファイブ、21世紀型スキルなどと比べて全体的にバランス型であることが分かる。
- 価値観が高いのは、日本の学習指導要領では
 - 「倫理的価値を理解し行動する」
 - 「公共性・市民性・国家/社会への貢献」
 - 「学びの姿勢」が強調されていたためと思われる。

国際的にSELが重要視される理由

- 知識偏重から「**実行力**」重視へ（課題解決・協働・伝える力）
- 社会的分断の拡大に伴う「**対話と信頼**」への要請
- 地球規模課題の増加に伴う「**市民性・共助**」の重要性
- AI時代における「**人間の学び**」の再評価（自己調整・関係性）

SELの様々な効果の例

学業・学習行動：Durlak et al. (2011) のメタ分析（213研究・約27万人）では、学校ベースの普遍的SEL介入により、社会情動スキル、態度、行動が改善し、学業成績も対照群より平均11パーセント高まると報告された。つまりSELは「学力と別物」ではなく、「**学習を根幹をなす力**」。

労働市場・生産性：世界経済フォーラムの雇用主調査でも、分析力や問題解決に加え、レジリエンス、学び続ける力、自己認識・自己調整、リーダーシップ／社会的影響力といった“人間中心スキル”の重要性が今後も高まると整理されている。さらにOECDは、社会情動的スキルが学業だけでなくemployabilityにも関係する枠組みとしてSELを位置づけた。

ウェルビーイング・レジリエンス：OECDのSSES 2023報告は、粘り強さ、好奇心、感情コントロールなどの社会情動スキルが、成績だけでなく将来の志望やウェルビーイングと関連することを示している。また危機・避難文脈では、教育における心理社会的支援（PSS）とSELの統合が国際的に重視され、INEEなどが実践上の論点を整理しています。

社会的結束・平和：学校ベースの普遍的プログラムは、向社会的行動の増加や反社会的行動の低減にも効果が示されており、Sklad et al. (2012) も複数領域での一貫した改善を報告している。



UNESCO Futures of Education

- 複雑で不確実な世界に対応するために教育の目的そのものを再考し、「教育を誰もが関わる社会契約」として再構築することを目指す国際的な取り組み（2019-）
- 教育を **人権・社会正義・人間の尊厳・持続可能性** といった価値の下に位置づけ直し、人と人、地球、テクノロジーとの関係を再考することを目的とした
- 単なる未来予測ではなく、**教育の元々の役割（why education?）を問い直す試み**。SDG4だけではなく、**教育をどう社会の中心的な力に転換するか**という問いを世界規模で提起し、教育が単なるスキル習得ではなく、**持続可能な共通の未来づくりに寄与する公共的基盤である**ことを強調。

→ ポスト2030のフレームワークの一つ

→ EduPortをグローバル展開する上で最も親和性の高い国際的な取り組み



2019：UNESCOが国際プロセスとして開始（独立した国際委員会）



2021：中核報告書 Reimagining our futures together（約2年、約100万人規模の協議）



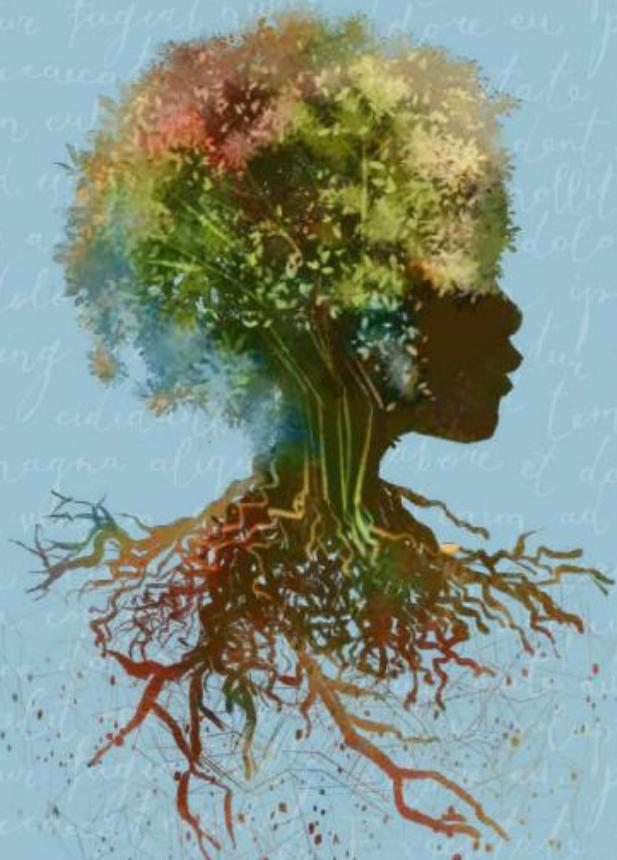
2022：国連事務総長主導のTransforming Education Summitへ接続（学習危機／SDG4加速）



2024.12：韓国（Suwon）国際会議：長期ビジョン「社会契約」を各国の政策・実践に落とす議論の場

Mainstreaming social and emotional learning in education systems

Policy guide



SELとユネスコ

- 2024年にユネスコは、**SELを教育にメインストリームするためのガイドライン**を出版。
- このガイドは、教育変革に向けた共同の取り組みに**SELを統合する必要性**を訴え、また、SELは、**学力の向上**や**中途退学率の低下**、**メンタルヘルスとウェルビーイングの改善**に寄与するだけでなく、**教室・学校・地域社会・社会全体における感情面および人間関係（関係性）のダイナミクスを強化する**点を強調している。
- また、HQ、IIEPだけでなく、インドのユネスコ Mahatma Gandhi Institute of Education for Peace and Sustainable Development もSELと教育のデジタル化について様々な取り組みを行っている。

次期EDU-Portの発展にむけて：SELを共通言語に、国際議論（UNESCO Futures of Educationやポスト2030）との接続



アプローチ（How）

- 相手国の改革目標を SELコンピテンシー として言語化
- 日本の教育実践を SELコンピテンシー／学習過程／実装条件（研修・運営・評価等）で提示
- 相手国が 自国の制度・文化の中で再設計できる協力へ（“移植”ではなく“共創”）
- Futures of Education やポスト2030などの国際的枠組みとの接続強化



期待効果（So what）

- 「日本の取り組みを導入するか」ではなく、「自国の改革として、どう設計・実装するか」の政策対話へ
- 制度・文化との不整合を最小化し、実装の安定性と協力の持続性の向上
- 各国の実装知を蓄積・比較し、EDU-Portが相互学習と知的リーダーシップの基盤確立
- 教員研修・カリキュラム・運営・評価・研究・EdTechを束ねた国際協力パッケージ化の促進

Engage, plan, and build the future with us

How to get involved?



Research & evidence

[Download our publications for free](#)



Thematic websites

[Access knowledge and resources through IIEP's specialized portals](#)



IIEP's global campus

[Receive training in educational planning and management](#)



Tools & methodologies

[Explore 500 solutions in the IIEP Policy Toolbox](#)

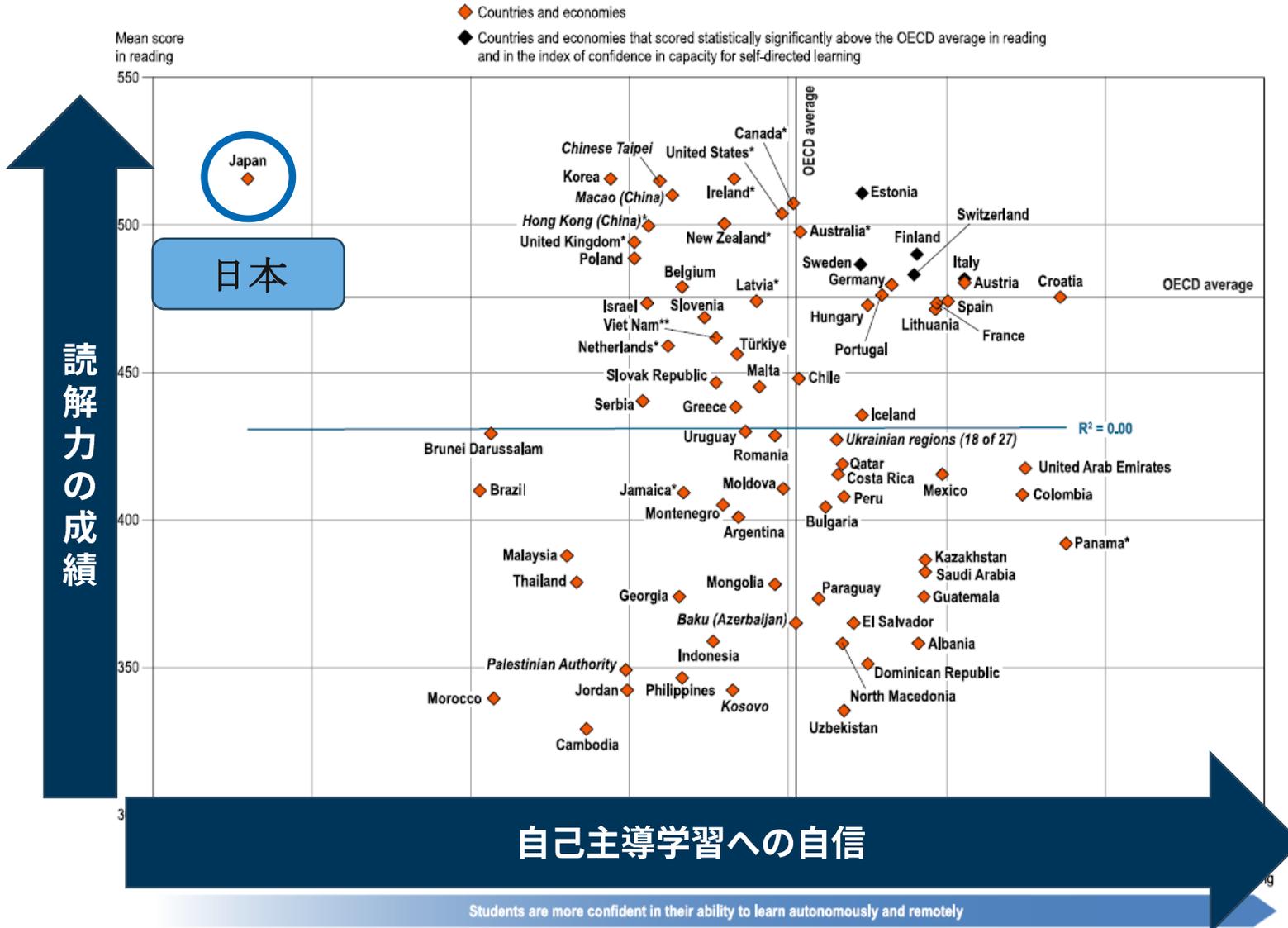
www.iiep.unesco.org

Contact us: info@iiep.unesco.org



unesco

ANNEX: 日本の教育課題の例 読解力と自己主導的学習への自信



日本の特徴

- 読解力は世界最高レベル (No.1) だが、自己主導的学習への自信は最下位 (最も左端)

構造的課題：

- 学力はあるが、自律的に学ぶ力や自信は非常に弱い
- 「主体的に学ぶ力」が必要
- 高学力を背景にしても、AI時代に必要な学習の自己管理能力が不足している可能性がある